

2018 年 8 月 26 日（日）～27 日（月）

焼岳登山（2445m）

～Report by 吉松～

当初計画では、2 日目は焼岳北峰に登頂してから、中の湯ルートを下って中の湯バス停に出る予定でした。しかし、荷物を軽くして山頂を目指したかったことと、中の湯ルートは穂高連峰を背にして下るために展望があまり楽しめないこともあり、北峰登頂後は初日に登ったルートで下山することにしました。

ややガスが出ていたものの雨に祟られる心配は無く、山頂を極めるには良い日和となりました。



屋根裏部屋の寝床はこんな感じ。

起きるときに頭をぶつけるのが難点と言え
ば難点ではあるが、今回は泊まり客が少なく
快適に寝ることが出来た。

1 階食堂からの上り下りは垂直の階段を利用。
こちらの方は大変だ。幸い夜トイレに
立って寝ぼけて落ちる人などはいなかった。



（階段が垂直に立っている）



受付と厨房

宿泊者には、雨水を濾過した水を 100 円で分けてくれていた。

食堂には、なんと！ソニー製ラジオが置いてあった。高い峠の小屋ではあったが、何とか受信できていた。さすがにソニー！



早朝、熊本さん、岡部さん、中島さんの 3 人はご来光を仰ぐ為に展望台まで出かけていった。

展望台の場所の高度が足りなかったのか、山に遮られたのが災いしたのか、東の空が明るくなつては来るものの、ご来光を楽しむことは出来なかったようだ。





雲で少し隠れてはいるが、満月の月が昇っていた。



6時 朝食

半熟卵に様々なおかずが付いた朝食は、皆の食欲を誘って、ご飯をたらふく食べた。



焼岳は、今なお活発な活動をしている活火山だ。昨年は火山性地震の情報が入って、登山を断念したほどだ。山頂に近づけばガレ場となり、落石へも細心の注意を要する。全員、色とりどりのヘルメットをかぶって、山頂へ向かうことにした。





ややガスが懸かってはいるものの、目指す北峰が見えている。



山頂へは山小屋からピストンで行くことにした。サブザックを忘れた文ちゃん以外は、全員軽装だ。

6時30分に焼岳小屋を後にした。



展望台までの10分ほどは、周囲が熊笹などで青々としている。



6時40分 展望台

皆の視線の先に焼岳山頂がそびえている。

展望台あたりでも、既に噴火口がいくつも口を開けていた。硫黄の臭いが漂い、近くの岩は生温かい。



展望台から一旦鞍部まで下りて、そこから再び登り返すことになる。
目の前に焼岳北峰を見ながらの歩行だ。



鞍部への下りは、池戸さんが先頭に立った。



暑くなく湿度さえ低ければ、池戸さんは快調だ。



7時、鞍部からの登り返しに入ったところで小休止。落石、浮き石に対する注意書があった。ここから先は危険地域だ。足下に注意しながら登ることにした。





北峰の大岩にたどり着いた。

岩には硫黄が厚く付着していて、割れ目から盛んに噴煙が吹き出していた。



噴煙を左に見ながら岩をよじ登り、山頂を目指した。

噴煙近くの岩は、地熱でどれも生温かい。



8時少し前に、百名山 焼岳北峰（2444m）に立った。

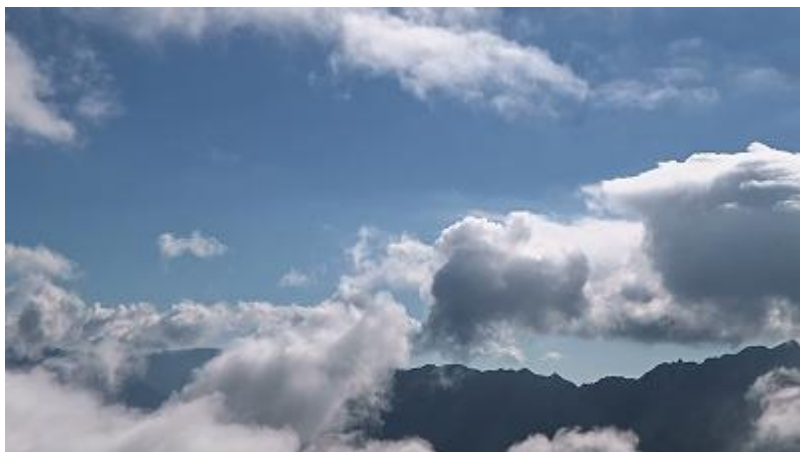
クマさん会では初めての登頂であった。雲と、西からの風に乗って吹き上がってくるガスのため、残念ながら360度の視界を楽しむことは出来なかったが、登り切った感激はひとしおだ。





岡部さん一人は、皆の制止を振り切って切り立った岩の頂に。

(落ちたって、知らないからな・・・)



雲の晴れ間が来るのを暫く待ったが、やはり今日は無理なようだ。

む〜、残念！ 諦めて下山を開始した。





9時10分

焼岳小屋に戻った。
予定時間通りだ。

小屋から山頂のピストンの間にも、沢山の花が咲いていた



オヤマリンドウ



コケモモ



ヤマハハコグサ



シラタマノキ



オンタデ



アザミ



9時20分

山小屋を出発
いくつもの階段に気をつけながら下りなければならぬ。



小一時間ほど下ったところで小休止



高度が下がるに従って、気温が上がる。
暑さにめっぽう弱い池戸さんは、頭から水をかけてクールダウン。
暑くてたまらず、ついに、こんな格好に。



下山道では常に2人の女性が先頭に立って、男性陣を引っ張った。
一体、あのヴァイタリティはどこから来ているのだ。



男性陣の内輪話；

もう、クマ^{じょ}女などとかawaiiげな呼び方は返上だ。彼女たちは、文字通りクマ^{おんな}女だ。
ブスクサ、ブスクサ・・・。



下山道での最後の休憩

またまたひっくり返る池戸さん。



登山口までもう一息なので、誰も池戸さんの休憩に付き合ってくれない。

(世の中は厳しいですね～～。)



岡部さん、中島さんが一番に登山口へ到着



少し遅れたものの、池戸さんもゆっくりと下りてきた。

11時10分、全員無事に登山口まで戻った。お疲れ様でした。



あとはゆっくりと、河童橋先の「森のリゾート小梨」まで歩き、「小梨の湯」で汗を流すことにした。

焼岳小屋から登山口、そして小梨の湯までの移動中に撮影した花々



オオカメノキ



サラシナショウマ



ノコンギク



ホタルブクロ



12時過ぎに「森のリゾート小梨」に到着。
丁度12時からオープンする「小梨の湯」
に入った。
ほとんど貸し切り状態であった。



ゆっくりと風呂に入ったあとは、「小梨の湯」
の真ん前にある「小梨平食堂」で昼食。



(軒先のとるてる坊主が迎えてくれた。)



例によって、生ビールで乾杯！ 汗をかき、風呂に入ってから生ビールはたまらない！！
時間は充分合ったので、生ビールを2杯も飲み、食事もしっかりと摂ることが出来た。





2 時前に、上高地バスターミナルに向かった。

汗をかかないようゆっくり、ゆっくり歩く。



中島さんは河童橋が初めてだそうだ。

一人だけの特別記念写真。

なかなか、絵になります。



上高地バスターミナルから、2 時 3 0 分発
新島々駅行のバスに乗り込むことにした。

それにしても、よく食べますね～。

うまそうですね～。↓





新島々バスターミナルでバスを降り、松本駅行の電車に乗り換え。



新島々駅 4 時 4 分発松本駅行に乗車。

吉松だけ日に当たる側の椅子に。あっという間に自分だけ取り残された。寂しいー。



帰りは、松本駅 4 時 5 8 分始発のスーパーあずさ 2 8 号を利用した。
 駅で購入した純米大吟醸と、持参のウィスキー、焼酎で早速酒盛りが始まった。
 いつからのことか定かでは無いのだが、何故か車中の酒盛りはクマさん会の定番となっている。



車窓から望めた富士の勇姿。

数多い山々の中でも、やはり富士山は飛び抜けた存在だ。



池戸さん、文ちゃん、吉松は八王子駅で先に下車。



3人のうるさい男が下りたら、中島さんは寝てしまったようだ。

仕事も遊びも忙しいようで、昨夜は夕食後バタンキュー、今日も車中でグウグウグウ、大変お疲れ様です。

急な日程変更にもかかわらず、6人で焼岳登山を楽しむことが出来ました。（既に別の予定が入っていて参加することができなかった能勢さんには、大変申し訳ございませんでした。新調したヘルメットを使用するチャンスが、早く来ますように！）

池戸さんへは、「あと5Kg減量すべし」との温かいアドバイスが皆さんからありました。

クマ女（じょ）は、今後クマ女（おんな）と呼んだ方が良いのではないかと、吉松が提案しました。

今回の焼岳登山で、クマさん会で登った百名山が図らずも一座増えました。愛でたし、愛でたし。